

自由遊びにおける精神遅滞児の行動特性

—保育所と母子通園施設での行動のちがいに関する事例研究—

佐野ゆかり・小田ひとみ*

湘北短期大学*

Behavior Patterns of a Mentally Retarded Child during Free Play
— A Case Study : in a Day Nursery and in an Institution for Children with Disabilities —

Yukari SANO and Hitomi ODA*

*Shouhoku Junior College

Summary

Behavior patterns of a mentally retarded child during free play were observed and recorded with VTR in a day nursery (integrated child care) and in an institution for children with disabilities. The difference between the two clearly showed the special needs of intervention and help for the success of integrated child care in this case.

Key words: Integrated Child Care (統合保育), Mentally Retarded Children (精神遅滞児), Free Play (自由遊び)

I はじめに

1. 統合保育の広がり実践課題

1974年に厚生省が、国の施策としては初めての「障害児保育事業実施要綱」をつくって以来、障害をもつ子どもを障害のない子どもと一緒に育てたいという親の願いの高まりと、保育者の障害児に対する理解の深まりとによって、保育所への障害幼児の受け入れは進みつつあり、現在60%を越える保育所が、何らかの障害をもつ子どもを受け入れている。¹⁾ 保育所で、障害をもつ子どもが、障害をもたない子どもと一緒に活動することは、障害児にとっても、健常児にとっても、有意義なことであると考えられているが、現実には、保育者の人員の問題や、障害児保育に関する研修が不十分であること、専門機関との連携がうまく行なわれていない等の問題があり、障害をもつ幼児が適切な保育を受けられていない場合も多々見受けられる。^{2) 3)}

この現状を改善するためには、制度面の改善に加え、多様な事例研究や実践研究を積み重ね、障害児保育の内容や方法を学問的に構築していくことが必要であろう。

2. 障害児の自由遊び研究の意義

自由遊びは、子どもの成長発達に重要なものであるが、障害をもつ子どもは、自分から積極的に友達とかかわったり活動したりする意欲に欠けることも多く、自発的に楽しく遊ぶことができない傾向がある。保育所では、自由遊びの時間帯を比較的多くとっているため、この時間を障害児の発達にとって意味のあるものとする必要がある。

保育者の働きかけや環境設定のしかたによって、同じ一人の障害児の自由遊び時間帯の活動が、どのように変化するかを実証的に研究することは興味深いと思われるが、この種の先行研究は見当たらない。

3. 本研究の目的

本研究の目的は、保育所と母子通園施設に並行通園している、話し言葉未獲得の一精神発達遅滞児の、それぞれの施設における自由遊び時間帯の活動をビデオ撮影し、比較検討することにより、障害児にとっての充実した統合保育を築くための基礎資料を提出することである。

Ⅱ 方 法

1. 対 象 児

保育所へ週5日、母子通園施設へ週1日並行通園している精神発達遅滞児A。男。歴年齢4歳8か月。観察時における成長の目安として、「遠城寺式乳幼児分析的発達検査法」を実施した結果によれば、移動運動：4歳8か月、手の運動：4歳0か月、基本的習慣：3歳4か月、対人関係：2歳0か月、発語1歳4か月、言語理解：1歳4か月であり、運動面には遅れはみられないが、対人関係および言語面に大きな遅れがみられる。児童相談所の判定（3歳7か月時）では、中等度の精神発達遅滞。脳波に異常はみられない。

2. 観察方法

対象児が通園しているY市立保育所および母子通園施設で、同一週に、自然観察法による観察とVTR撮影を行なった。

対象児が通園しているY市立保育所の在籍園児は56名、保育者は10名。対象児が所属する年中組は、13名の幼児に対し、担当保育者2名。障害児は、対象児の他に、1名のダウン症児が年長組に在籍している。対象児のように、対人関係および言語面に大きな遅れをもつ子どもの保育経験を有する保育者はいない。保育内容は、自由保育が中心であり、行事前には設定保育が行なわれることがある。対象児の姉も、年長組に通園している。

対象児が通園している母子通園施設の通園児は10名、職員4名。対象児は、月曜日（母の仕事の休日）1日のみ、母子通園している。

3. 分析方法

(1) A児の自由遊び時間の行動の分析表作成：

撮影されたビデオより、自由遊び時間についてのみ、保育者等の働きかけ、対象児の行動、他児の行動に分けて、一覧表にまとめた。

(2) A児の自由遊び時間の行動軌跡の作成：

ビデオに基づき、室内遊びについては、入室後15分間のA児の行動軌跡を作成した。園庭遊びについては、母子通園施設での自発的な園庭遊び時間が2分間と短かったため、あえて時間を合わせることなく、保育所にお

ける午前中の園庭遊び時間全部についての行動軌跡を作成することとした。

(3) 行動エレメントのリストアップ：

行動分析表より、保育所（室内）、保育所（園庭）、母子通園施設（室内）、母子通園施設（園庭）のそれぞれにおいて出現した行動をリストアップした。

(4) 保育者の働きかけの発現率の算出：

働きかけの発現率は、観察時間を1分間を単位として区切り、1単位内の働きかけ発現の有無を1/0で記録し、総数で除した。

(5) 他児とのかかわりの発現率の算出：

他児が意図的にA児とかかわった場合だけではなく、意図しなくても他児の行動が明らかにA児の行動に影響を及ぼしていることがわかる場合は、カウントすることとした。算出方法は、(4)と同じである。

Ⅲ 結 果

1. 日 課

撮影日の、保育所および母子通園施設の日課は、次の通りであった。

(1) 保育所の日課

9:00 登園・準備（タオルかけなど）
 9:30 自由遊び
 11:00 昼食準備・絵本の読み聞かせ
 11:30 昼食・片付け・歯磨き
 12:30 着替え・昼寝の準備
 12:45 昼寝
 15:15 着替え・持ち物整理
 15:30 おやつ・片付け・歯磨き
 16:00 帰りのしたく・あいさつ
 16:05 自由遊び
 16:30 降園

(2) 母子通園施設の日課

9:30 登園・シール貼り・ナプキンたたみなど
 9:50 自由遊び
 10:05 朝の会（名前呼び・手遊び・歌）
 10:20 片付け・体重測定
 10:45 さくら・さくらんぼのリズム運動
 11:20 設定保育（ペープサート・歌など）

11:45 昼食・片付け・歯磨き
 13:05 自由遊び
 13:20 キューピー体操
 13:25 帰りの会（手遊び・紙芝居・楽器）
 13:45 自由遊び
 13:50 個別指導（認知力を高める学習他）
 14:30 降園

ビデオ撮影はそれぞれ一日のみであったが、この日の保育日課および対象児の行動は、保育者・他児のコメント、および母親の観察記録と対照して、体重測定以外は、ふだんの他の日とほぼ同様であった。

2. 自由遊び時間のA児の行動

(1) 保育所・保育室内での行動

- 〔i〕分析表：表1-1および表1-2の通り。
- 〔ii〕遊び時間：9時30分から10時12分までの43分間。
- 〔iii〕行動軌跡：図1の通り。母子通園施設と比較するため、入室後15分間について表示した。一度押し入れからテラス側のガラス戸付近へ移動したのは、ビデオ撮影者に頼まれた年長組女子4人に連れ出されたためである。
- 〔iv〕行動エレメント：観察された行動エレメントは次の通り。「立つ」、「すわる」、「寝そべる」、「寝返りをうつ」、「歩く」、「走る」、「転ぶ」、「足踏み」、「チェーンを振る」、「物を落とす」、「指でたたく」、「足をなめる」、「横目で見る」、「あくびをする」、「カーテンの縫い目をほどく」、「保育者の膝に乗り」、「保育者を目で追う」、「声を出す」、「笑顔」、「両足跳び」
- 〔v〕停留場所：押し入れの中および前が最も長く、43分間中の30分30秒（70.9%）を占める。次に、年中組保育室のままごとコーナーが10分間（23.3%）である。

(2) 保育所・園庭での行動

- 〔i〕分析表：表1-3および表1-4の通り。
- 〔ii〕遊び時間：10時13分から11時06分までの54分間。
- 〔iii〕行動軌跡：図2の通り。
- 〔iv〕行動エレメント：観察された行動エレメントは、次の通り。「立つ」、「すわる」、

「歩く」、「走る」、「両足跳び」、「ギャロップする」、「物を落とす」、「水たまりに入る」、「ブランコに乗る」、「ブランコに体をそらせて乗る」、「ブランコの縄をひねって回転する」、「ブランコの縄を揺らしてながめる」、「うんていにぶらさがる（保育者の補助で）」、「保育者を追って走る」、「声を出す」、「チョーダイのサイン」、「笑顔」

- 〔v〕停留場所：ブランコのところが最も長く、54分間中の41分間（75.9%）を占める。次に木の陰が6分間（11.1%）である。

(3) 母子通園施設・保育室での行動

- 〔i〕分析表：表2-1および表2-2の通り。
- 〔ii〕遊び時間：9時51分から10時05分までの15分間。
- 〔iii〕行動軌跡：図3の通り。室内のほぼ全域にわたり、設定された遊具のすべてをカバーしている。
- 〔iv〕行動エレメント：観察された行動エレメントは、次の通り。「立つ」、「すわる」、「歩く」、「走る」、「両足跳び」、「ギャロップする」、「這う」、「転がる」、「後ろ歩きする」、「倒れこむ」、「ボールを投げる」、「ボールをける」、「マットをける」、「平均台を歩く」、「跳び降りる」、「大型ボールに乗る」、「大型ボールを押す」、「マットに頭をぶつける」、「すべり台へ登る」、「すべり台を歩いて降りる」、「すべる方から歩いて登る」、「跳び移る」、「寝そべる」、「模倣する」、「期待して待つ」、「かけ声をかける」、「声を出す」、「笑顔」
- 〔v〕停留場所：カラートンネルの中が最も長かったが、その時間は、わずか2分間（13.3%）であった。保育者の働きかけと環境設定により、活動が停滞することが、ほとんどみられない。

(4) 母子通園施設・園庭での行動

- 〔i〕分析表：表2-3の通り。
- 〔ii〕遊び時間：13時47分30秒から13時49分30秒までの2分間。
- 〔iii〕行動軌跡：図4の通り。
- 〔iv〕行動エレメント：観察された行動エレメントは、次の通り。「立つ」、「すわる」、「歩く」、「両足跳び」、「山に登る」、「山をかけ降りる」、「すべりこむ」、「おじぎをす

る」、「手を振る（バイバイ）」、「保育者にもたれる」、「笑顔」、「模倣する」、「声を出す」

〔v〕 停留場所：1分間に4回、山の登り降りをしている。活動が停滞することがない。

3. 保育者の働きかけとA児の反応

(1) 保育所・保育室での働きかけとA児の反応

〔i〕 保育者の働きかけの発現率：保育者の働きかけがみられたのは、10時00分、01分、02分、11分、12分で、発現率は、11.6%であった（担当保育者Nのみによる）。

〔ii〕 働きかけの内容：働きかけは、3回であり、その内容は、いずれもA児を押し入れの中から連れ出すことであった。言葉かけの内容は、「おいで」、「A君おふとんナイナイしよう」、「A君お外で遊ぼう」、「立ってください」等の、提案的言葉かけおよび指示的言葉かけであった。ままごと道具のみが、自由に使えるように設置されていた。

〔iii〕 A児の反応：保育者に両手を取られ引っぱり出されると、いやがらずに保育者の膝の上に立ち、笑顔を見せる。保育者への愛着が育っていることがうかがわれる。一度押し入れから出てきても、保育者が他の子どもに声をかけたり、撮影者と会話すると、すぐ押し入れに戻ってしまう。手をつないでテラスまで行き、靴を目の前に提示されて初めて、外で遊ぶ。

(2) 保育所・園庭での働きかけと反応

〔i〕 保育者の働きかけの発現率：保育者の働きかけがみられたのは、10時13分、14分、15分、16分、35分、53分、54分、55分、56分、11時06分で、発現率は、18.5%であった（担当保育者NとU二人による）。

〔ii〕 働きかけの内容：靴の提示、おにごっこへの誘い、一緒におにごっこをする、「チョーダイ」のポーズをさせる、ブランコの縄をおろしてやる、うんていへの誘いと補助、そでをまくってやる、一緒に泥んこ遊びをする等、遊びへの誘いと援助、サイン

言語表出の促しであった。言葉かけの内容は、「A君、靴」、「A君」、「チョーダイは?」、「さっ、足洗うよ」等、指示的言葉かけであった。縄ブランコは、普段は巻き上げてある物である。

〔iii〕 A児の反応：保育者に靴を提示されるとはき、外へ出る。保育者の後を追って走る行動が、10時14分、15分の2回発現するが、いずれも一瞬であり、保育者が他の子どもと手をつないだり、他の子どもと追いかけて始めることが、A児の行動の発展を妨げているように見うけられる。保育者が縄ブランコを降ろすと乗り、他児にブランコを奪われた後、保育者の「チョーダイは?」に応じて、両手を合わせるチョーダイのサインをする。手をひかれてうんていへ移動し、抱き上げられてうんていにつかまる。抱いて振り回してもらうと喜ぶ。手をひかれて足洗い場へ移動する。以上のように、A児は保育者の働きかけを喜んで受け入れている。

(3) 母子通園施設・保育室での働きかけと反応

〔i〕 保育者の働きかけの発現率：表2-1および表2-2に示されているように、保育者と母親の働きかけは、自由遊び時間15分間の全てにわたってなされており、発現率は100%であった。

〔ii〕 働きかけの内容：子どもの自発的な遊びが引き出されるように、環境（遊具）の設定を行なっている。また、子どもの活動の様子に応じて、遊具の配置を変化させている。A児がマットやカラートンネル内で寝そべって遊びが停滞すると、マットごと引っぱって床すべりに発展させたり、カラートンネルを回転させるなど、寝そべっているより、もっと楽しい活動を経験させて、活動意欲を引き出すような働きかけをしている。自発的な遊びのレパートリーが少なく、対人的な弱さをもつA児に対して、やわらかいサッカーボールやビーチボールを使用して、やりとり遊びができるように援助している。他児に「A君さそってきて」と頼むなど、子ども同士のかかわりが生じるような働きかけも行なっている。言葉かけも豊富で、その内容も、「お集まりしま

すよ」、「おとなりのお部屋でお椅子出してね」等の指示的言葉かけの他に、ボールをけりながら「A君行くよー」、「えーい」等、保育者が自分のしていることを言葉にするセルフトーク、「わー、すごい、跳んだの」、「あーあ、落ちた」等、子どもをしていること、言いたいことを代わって言葉にしているパラレルトークがあり、「すべり台、シュー」、「コロ、コロ、コロ」等の擬音語、擬態語も使われている。

〔iii〕A児の反応：図3の行動軌跡からもわかるように、A児は設定された遊具のすべてを使って活発に遊んでおり、終始笑顔を見せている。保育者の持続的働きかけにより、活動が停滞することがない。ボールのやりとりができ、ボールが自分に投げられるのを期待して待つ行動がみられる。保育者の模倣をして「オーイ」と言うなど、発声が多い。

(4) 母子通園施設・園庭での働きかけと反応

〔i〕保育者の働きかけの発現率：表2-3に示されているように、働きかけの発現率は、100%であった。

〔ii〕働きかけの内容：この場面は、帰りの会と個別指導の間のわずかな時間に、A児がうわばきのまま園庭へ出て遊び出したのに対して、気持ちの切り替えをさせ、納得して個別の学習に向かえるようにさせるための働きかけになっている。「お外の靴じゃないんだけど」、「もう一回行ってきたらお部屋へ入ろう」等の提案的言葉かけ、A児と一緒に山に登るミラリング、「はい、お部屋入る」とやや強い口調で言う指示的言葉かけがみられる。また、T子の降園に際し、T子とT子を援助する保育者(G)の「さようなら」や「バイバーイ」の動作と言葉かけに対し、保育者(S)は「さようなら」とT子におじぎし、「Tちゃんバイバーイ」と手を振り、A児にとってのモデルを示している。

〔iii〕A児の反応：始めは勝手に山の登り降りをしていたが、保育者の「よういどん」の言葉かけで、合図に合わせてスタートするようになった。T子および保育者

(G)に対する保育者(S)の「さようなら」や「バイバーイ」の動作を模倣して、T子におじぎをしたり手を振ったりしている。

4. 他児とのかかわり

(1) 保育所・保育室での他児とのかかわり

〔i〕他児とのかかわりの発現率：かかわりがみられたのは、9時37分、38分、39分、45分、51分、52分、10時04分、06分で、発現率は18.6%であった。ただし、これらのかかわりはすべて撮影者が他児に、「A君と遊んであげて」または「A君を連れて来て」と頼んだことにより発現したものと、他児がビデオカメラを意識してとった行動で、当日撮影がなければ0%であったと推測される。

〔ii〕他児とのかかわりの内容：A児が一人遊びを続けているとき、「A君と遊んであげて」という撮影者の依頼に応じた同年齢の4人がA児のそばへ行き、頭に鍋をかぶせる、積み木を乗せる、積み木でつつく、A児が持っていたチェーンを取る、おもちゃの包丁でつつくなどすると、約30秒後にA児は一人に向かって「アーッ」と声をあげている。A児の反応に4人は笑い、再び同様の行動を続けるが、すぐA児のそばを離れる。A児が押し入れの中に入ってしまったとき、撮影者の「A君を連れてきて」との依頼に応じてA児の姉や年長組女子がA児を押し入れからひっぱり出すが、A児はすぐ押し入れへもどってしまう。また、撮影者の「A君を連れてきて」との依頼に応じてA児の姉や年長組女子がいやがるA児を押し入れからひっぱり出しカメラのそばまでつれて来るが、A児はすぐ押し入れへもどってしまう。「A君いつもこの中に入っているんだよ」とE君が言うように、ふだんA児は他の子どもとほとんどかかわりを持たずに常同感覚遊びを続けているものと思われる。

(2) 保育所・園庭での他児とのかかわり

〔i〕他児とのかかわりの発現率：かかわりがみられたのは、10時14分、15分、29

分、30分、31分、34分、35分、11時03分で、発現率は14.8%であった。

- 〔ii〕他児とのかかわりの内容：A児がうれしそうに保育者と一緒に走っているところへ、R子が来て、保育者と手をつなぐと、A児は水たまりへ行ってしまう。A児が保育者を追って走っているときに、C君が来て保育者を追いかけると、A児は保育者を追うのをやめてブランコの柵の前へ行く。A児が機嫌良くブランコに乗っていると、D子がA児をおろそうとゆすったり顔をさわったりするので、A児はブランコから降りる。姉がブランコを確保してやり、A児は再びブランコに乗るが、年少組の男児3名にけられて、おろされてしまう。ブランコに乗りたくてチョウダイのポーズをして柵のところに立って見ているが、せっかく自発的なコミュニケーションをしているのに、その伝達意図はかなえられない。年長組女児3名がそばに来てA児の顔を心配そうにのぞきこむと、A児は歩いて離れて行く。別のブランコに乗っているとき、鬼ごっここの子どもたちがそばに集まると、A児はびっくりして、となりのブランコへ逃げる。このように、他の子どもとのかかわりは、A児にとって快い楽しい経験にはなっていないように見受けられる。

(3) 母子通園施設・保育室での他児とのかかわり

- 〔i〕他児とのかかわりの発現率：かかわりが見られたのは、9時52分、54分、59分、10時00分、01分、05分で、発現率は40%であった。
- 〔ii〕他児とのかかわりの内容：他の子どもがカラートンネルに入るのを見てA児もトンネルに這って入る。保育者の「A君誘って来て」という言葉かけでR君がA児を抱いて連れてくる。滑り台で遊んでいる他の子どもを見て、A児が滑り台にのぼって跳び降りる。A児がカラートンネルへもぐるのを見たS君がA児に続いてトンネルに入る。A児が滑り台を歩いて降りようとしたとき、K君が滑る方か

ら登って来るのを見て戻り、跳び降りる。サイコロ椅子に登って立ったA児をU子が模倣する。A児が後ろ歩きをすると、K君がじっと見る。このように、他の子どもの行動をA児が見て模倣し、その逆にA児の行動を他の子どもが見て模倣するというように、互いに行動をバラエティーに富んだものになっている。

(4) 母子通園施設・園庭での他児とのかかわり

- 〔i〕他児とのかかわりの発現率：かかわりが見られたのは、13時49分で、発現率は50%であった。
- 〔ii〕他児とのかかわりの内容：保育者(G)に援助されてT子がA児にさようならのおじぎをしたり、「バイバーイ」と手を振ると、A児は保育者(S)に援助されてT子におじぎをしたり、手を振ったりしている。保育者の橋渡しがあることで、A児とT子とのかかわりが生じている。

IV 考 察

以上のように、保育所と母子通園施設でのA児の行動を比較すると、保育所では保育者の働きかけが少ないため、ひととのかかわりを持たない時間が持続し、A児の行動は不活発で常同的なものになっている。自発的な遊びのレパートリーが少なく、対人的な弱さをもつA児の場合、健常児と保育の場を同じくするだけでは、他児との好ましいかかわりあいも生じにくく、保育者があまり介入しない現状では、むしろA児の障害の特性を一層固定化させるおそれがあると考えられる。A児のケースは、場の統合はあるが特別な保育ニーズが保障されていない状態にあると言えよう。

それに対し、母子通園施設では、保育者のきめ細かな持続的働きかけにより、A児は活動が停滞することがなく、活発に遊んでおり、終始笑顔を見せている。子ども同士の模倣から活動が豊かになるなど、好ましいかかわり合いも見られる。

保育所における自由遊び時間を充実したものにするためには、A児が自発的に遊べるような環境設定をすること、保育者の持続的な働きかけ、特にA児の行動を注意深く見守って、保育者がそれに反応する「応答的働きかけ」をすること、A児の行動や気持ちを言語化してやったり、やりとり

遊びを用意し、コミュニケーションのモデルを示し、他児との橋渡し役になること等が有効であろう。

A児の在籍している年中組には、13名の幼児に対して2名の保育者が配置されているので、上記の様な働きかけを行なえる人員的条件は整っている。保育所と母子通園施設とが連携を取り、保育者がA児の行動特性を理解すれば、統合保育の場でA児の発達を援助することは充分可能であると考えられる。

V ま と め

1. 保育所と母子通園施設に並行通園している、話し言葉未獲得の一精神発達遅滞児の、それぞれの施設における自由遊び時間帯の活動をビデオ撮影し、比較検討をおこなった。
2. 保育所では、保育者の働きかけが少なく、対象児の行動は不活発で、他児とのかかわりも生じにくかった。

3. 母子通園施設では、保育者の持続的働きかけにより、対象児は活発に遊んでおり、子ども同士の模倣等が見られた。

4. 統合保育の場で、対象児の発達を援助する方法が示唆された。

*研究に御協力いただいた保育所および母子通園施設の方々に深く感謝いたします。

参考文献

- 1) 植村尚史(1996) 社会福祉施設の現状と課題,中央法規出版
- 2) 川池智子(1996) 統合保育の実践と制度的課題—統合保育を实践した保育者に対する二地域の調査から—,山梨県立女子短期大学紀要、29、75—90
- 3) 園山繁樹(1994) 障害幼児の統合保育をめぐる課題—状況要因の分析—,特殊教育学研究、32(3)、57—67

表1-1 自由遊び時間のA児の行動 (保育所・保育室内)

時刻 時：分	保育者等の働きかけ	対 象 児 の 行 動	他児の行動
09:30		・年中組保育室のままごとコーナーにすわり、プラスチックチェーンを振っている。	
09:32		・棚から、ほうろうのなべを取り出し、チェーンをなべのそこに落としてあて、音を楽しむ。	
09:33	・母、Aに近づき「バイバイ」手を振る。Aにふれる。 ・母、立って離れ、ろうかからAに「バイバイ」	・母の顔も見ないでチェーン遊び。遊びを中断されたくない様子。 ・チラッと母を見る。 ・皿を取り出し、チェーンを落としてあて、音を出す ・チェーンを畳に落してみる。 ・クルミをパラパラ落とす。なべの底にあてる。容器にクルミを入れて、容器からなべ底へ落す。 ・指の背で、なべ底をトコトコたたく。 ・横目、あくび。 ・チェーンとなべとクルミの遊び。 ・手を合わせて横目。	
09:34			
09:35			
09:36			
09:37	・撮影者、他児に「A君と遊んであげて」		・撮影者に「イイヨ」と4人がAのそばへ行く。 ・Aの頭になべをかぶせる。積み木をのせる。積み木でつづく。チェーンを取る。おもちゃの包丁でつづく。 ・Aの反応に笑う再び続ける。
09:38		・子どもたちに囲まれて様々なことをされて約30秒後、1人に向かって「アーッ」 ・「アーア」等。	
09:39		・両手に積み木を持つ。	
09:40		・立つ。 ・年長組保育室の押し入れの中に入る。	・Aのそばを離れる。
09:41			
09:45	・撮影者、姉に「連れて来て」と頼む。	・出ようとしない。 ・いやがっている。	・姉とB子連れに行く。
09:51	・撮影者、年長女子2人に「連れて来て」と頼む。		・B子、C子、Aをひっぱる。姉を呼ぶ。
09:52	・撮影者「ありがとう」	・VTRカメラのそばまで、無理やりひっぱりだされる。 ・押し入れへ戻ろうとしてこぼる。	・4人で連れ出す
09:53		・押し入れ前まで戻り、立っている。	・戻ろうとするAを阻止。

表1-2 自由遊び時間のA児の行動(保育所・保育室内)

時刻 時:分	保育者等の働きかけ	対 象 児 の 行 動	他児の行動
09:54		・押し入れ前に立っている。横目。手はズボンの中。あくび。	
09:55	・撮影者、Aに「何が楽しいの、そんなに」	・押し入れに入る。ふとんの上に寝転び、天井に指の背をあて、タカタカ音を出す。足も天井につける。	
09:56	・「どうしてこの中に入っちゃうの?」	・足を手でさわり、口へ持っていき、しゃぶる。	
09:57	・「A君どうしてそこ入っちゃうの? どうして?」	・時々、「アアーア」など小さい声を出す。	
09:58		・「デデデー」など小さい声を出す。	
09:59		・寝返りをうち、ふとんの上に腹ばいになる。 「バババー」	・E君「A君いつもこの中に入っているんだよ」と撮影者に話す。
10:00	「あっち出てみんなと遊ばない?」	・横目。	
	・保育者(N) そばへ来てAをひっぱり出す。	・ひっぱり出される。保育者の膝に乗る。	
10:01	・「A君、A君、おふとんナイナイしよう」	・笑顔。	
		・走って本棚のそばまで行き、中央へ戻る。	
10:02	・保育者(N)部屋を出る	・保育者(N)を目で追う。	
	・保育者(N)Aを連れ出す。	・押し入れへ戻る。	
		・外へ出され、保育室中央でチェーンを振り回す。	
10:03		・押し入れのカーテンの陰でチェーンを振っている。	
10:04			・O子、ビデオに写りたくてカーテン前へ来る。
10:05			・O子離れる。
10:06		・カーテンの陰で両足跳び。カーテンにじゃれる。カーテンの縫い目のほつれから、ほどく。	・S子のぞく。
10:07		・横目で立っている。	
10:08		・本棚まで走り、カーテンへ戻る。	
		・首だけカーテンから出す。横目。	
		・カーテンの陰にかくれる。時々足踏み。	
10:09	・撮影者「A君出て来てよ」	・ふとんに寝転んでいる。	
10:10		・「アアーア」「ンーン」「アアーア」	
10:11	・保育者(N)「はい、おいでA君お外で遊ぼう、ね、立ってください。よいしょ。A君ナイナイしてきてください。」チェーンを渡す。手をひいて連れ出す。「おいで、遊ぼう」	・ひっぱり出される。	
		・立つ。	
		・保育者の膝の上に乗る。	
10:12		・手をつないで、テラスへ向う。	

表1-3 自由遊び時間のA児の行動 (保育所・園庭)

時刻 時：分	保育者等の働きかけ	対 象 児 の 行 動	他児の行動
10:13	・保育者(N)「A君、くつ」目の前にくつを持って見せる。	・そっぽを向いたまま、くつをはく。	
10:14	・保育者(N) Aのそばを通る。 手招きする。	・テラスから、水たまりへ走る。 ・一瞬、保育者と一緒に走る。 ・R子が保育者と手をつなぐと、水たまりへいってしまふ。	・R子、保育者と手をつなぎに来る。
10:15	・保育者(N)「A君」と呼ぶ。 ・保育者(N) Aと手をつないで走る。 ・保育者(N) Aに追いかけさせる。	・保育者のそばへ歩いて行き、手をつなぐ。 ・保育者と手をつないで走る。 ・保育者を追って走る。	・男児対女児でおにごっこ(泥棒と警察)をしている。
10:16	・保育者(U) 縄ブランコをおろしてやる。	・ブランコの柵の前で立っている。 ・柵の前でギャロップ。 ・両足跳び。 ・ブランコに乗る。	・C夫、保育者を追いかける。
10:17		・足をおろして立っている。	
10:18		・縄をねじって回転する。	・となりのブランコに女児が乗る。
10:20			
10:21		・機嫌良く乗っている。反って乗る。	
10:22		・両足跳び。	
10:23		・縄をねじって回転する。	
10:24			
10:25			・となりの女児降りる。
10:29		・いやがっている。	・D子、Aを降ろそうと揺する。顔をさわる。
10:30			・姉がブランコを確保してやる。
10:31		・一度降りるが、姉に促されてまたブランコに乗る。	・年少組男児3名が来る。Aをける。
10:34		・抵抗していたが、蹴られて降りてしまう。 ・両手をあわせて柵のところに立って見ている。(チョウダイのポーズ)	・男児、ブランコに乗る。
10:35		・歩いて離れる。(チョウダイのポーズのまま)	・年長組女児3名そばに来る。心配そうに覗き込む。

表1-4 自由遊び時間のA児の行動(保育所・園庭)

時刻 時:分	保育者等の働きかけ	対 象 児 の 行 動	他児の行動
10:35	・保育者(U)「チョーダイは?A君、チョーダイ」ポーズをさせる	・チョーダイのポーズ。	
10:37	・別の縄ブランコをおろしてやる。	・別のブランコに乗る。	
10:38		・となりのブランコを眺める。	
		・一度降りて、縄だけ揺らして眺める。	
10:53	・保育者(N) Aの手をひいて、うんていへ連れて行く。	・ブランコに乗っている。	
10:54	・保育者(N) Aを抱き上げて、うんていにつかまらせる。抱いて振り回す。	・時々足をついて止まっている。縄をねじるなど。	
	・保育者(N) 次の順番の子どもを抱き上げる。	・保育者と手をつないでうんていに移動。	
10:55	・保育者(U) Aのそでをまくってやる。	・保育者に抱いてもらって、うんていにつかまる。	・順番にならんでいる。
10:56	・Aのそばで一緒に砂を掘っている。	・振り回してもらってうれしそうな表情。	
10:57		・そばにいる。	
		・うんていの下の水たまりに入る。	
11:03		・ブランコ前の水たまりで、泥んこ遊び。	
		・水の中へ砂を落とす。	
		・ブランコの柵にかけてあるゴザに泥をボタボタ落とす。	
		・スコップに泥をボタボタ落とす。	
		・木の陰へ移動。	
		・座り込んで、スコップに砂をパラバラ落とす。	
		・ブランコに乗る。	
11:06	・保育者(U) Aの手をひいて足洗い場へ移動「さっ、足洗うよ」	・びっくりして、となりのブランコへ逃げる。	・おにごっこの子どもたちが、そばに集まる。
		・ブランコ、縄をねじるなど。	
		・保育者に手をひかれて、足洗い場へ移動。	

表2-1 自由遊び時間のA児の行動 (母子通園施設・保育室内)

時刻 時：分	保育者等の働きかけ	対 象 児 の 行 動	他児の行動
09:51	・(S)「わー、A君元気いっぱい」	・コーナーのマットの上ではねる。「アーアー」	
09:52	・母、ビーチボールをAに投げる。	・黒板まで走り、中央のスポンジマットに座る。	
	・(S)カラートンネルを出す。 「トンネルやりたい人」	・ビーチボールを持ってながめ、投げる。	
	・(S)「ぶつかる、ぶつかる」	・マットではねる。	
09:53	・(S)「おーい」	・他児がカラートンネルに入るのを見る。	・トンネルに入る
	・(S)「そうだ、もういいかいのかくれんぼしよう」	・トンネルに這って入る。	・「もういいかい」
	・(S)「かくれんぼするものよっといで」	・「オーイ」「オーイ」	
09:54	・(S)「A君おいでって、A君さそってきて」	・トンネルを出て、壁際の平均台を歩く。	
	・母、Aのそばへ行き、腰を支持。	・平均台から、跳び降りる。スポンジマットの上を歩き、マットをけて広げる。両足跳び。	・R君、Aを抱いて連れてくる。
		・R君に抱かれて、保育者のそばへ移動。	
		・大型ボールへ移動。上へ乗る。	
09:55	・母「着替えよう」	・滑り台へ移動。滑る他児を見る。滑り台に登り跳び降りる。登って、歩き降りる。(2回)	・滑り台で遊んでいる。
		・滑る方から歩いて登る。	
09:56		・滑り台から母へジャンプ。手伝ってもらって、上着を着替える。	
	・(S)マットにAを巻き込む。	・窓際へ移動。サイコロ椅子に腰掛ける。マットに倒れ込む。マットに巻かれる。	
	・(S)マットごと、床すべりさせる。「ゴロゴロゴロ」	・マットごと床滑り。	
	「はい、行きまーす」		
09:57	・(Y)「わー、いいな、いいな」	・滑り台に登り、跳び降りる。(2回)	
	・(M)「わー、すごい、とんだの」		
	・(M)「シュー、滑り台シュー」	・後ろ歩きをする。	
	・(S)「行くよー、A君行くよー」サッカーボールをAへける。「えーい」		
09:58	「キックキックしてみてもキックキック」	・けられたサッカーボールを見る。	
	「ほうら来た。それ行け」ボールをAへける。	・「ワーイ」ボールをける。	
	「A君のうしろ」		
	「こっちこっち」	・振り向いてボールを拾い、両手で投げる。ボールは横へ飛ぶ。2回ボールを投げる。	
	・(Y)「A君えーいは？」	・「ワーイ」マットの上で両足跳び。「ヤーイ」	
	・(S)「えーい」ボールをAへける。「ころころころ」		
	「そうこっちへ」	・ボールを持って転がる。	
	「おーい、A君行くよ」	・ボールを横へ投げる。	
	・(S)大型ボールを中央へ運ぶ	・大型ボールのところで両足跳び。「ワーイ」	
		・大型ボールを押す。	
		・カラートンネルへ移動。	

表2-2 自由遊び時間のA児の行動（母子通園施設・保育室内）

時刻 時：分	保育者等の働きかけ	対 象 児 の 行 動	他児の行動
09：59	・(Y)「Mちゃんいるからね、A君」	・カラートンネルへもぐる。	・M子、トンネル内にいる。
10：00		・抜け出して滑り台へ。跳び降りる。「ヤーッ」	・S君Aに続いてトンネルに入る
		・ビーチボールを手で転がす。	・K君、滑る方から登ってくる。
		・ギャロップして、また滑り台へ戻る。	
		・滑り台を歩き降りしようとするが、K君を見て戻り、跳び降りる。「ヤーッ」	・T子、Aを見ている。
		・カメラのそばへ歩いて来て両足跳び「ヤーッ」	
		・近くに丸めて立ててあるマットに頭をぶつける「ヤーッ」「ヤーッ」	・U子、Aをまねて登ろうとする
		・両足跳び。窓際へ走る。ティッシュの箱を放るサイコロ椅子に登って立つ。	・他児もトンネル内に入っている
10：01	・(M)「A君、A君」(U子の代弁)	・カラートンネルへ移動。中へ入る。	・S君出てくる。
		・トンネル内で、寝そべっている。	
	・(S)トンネルを揺する。		
	・(S)平均台を室内中央へ運ぶ		
	・母、トンネルを動かし、中をのぞいて声をかける。		
10：02	トンネルをゴロゴロ回転。		
	・(S)「ヤッホー、Aちゃん出ておいでー」。		
	・母と(S)、トンネルを動かす		
10：03	・母、Aの足を持って引きずり出す。	・トンネルから引きずり出され、すぐ平均台を見つけ乗る。跳び降りる。平均台に再び乗り、渡る。	
		・平均台からマットへ、跳び降りる「エーイ」	
	・母、Aの手を持って立たせる。	・大型ボールのそばへ座る。	
		・平均台に腰かける。	
10：04	・(M)「あーあ落ちた、あーあ落ちた」Aの頭にボールをぶつける。「えーい、えーい」「じょうず、じょうず」拍手する。	・平均台に寝転ぶ。平均台から転がり落ちる。	
	・母、Aにボールを投げる。	・「エーイ」(M)に向ってボールを投げる。	
	「A、行くよ」「えいっ、えいっ」	・「エーイ、エーイ、エーイ」	
	・(M)「じゃ、お集りしますよ」	・平均台をまたいだまま、両足跳び。「アーイ」「アーイ」	
	・母、ビーチボールをAの頭にぶつける。「えいっ」	・期待して、ボールを待つ。	
	・(M)「さあ、おとなりのお部屋で、お椅子出してね。」	・平均台を離れ、後ろ歩きを開始。平均台の周りを3周する。	
10：05	・母、Aをとりの部屋へ連れて行こうとする。		・K君、後ろ歩きしているAを見る。
	・母、Aをとりの部屋へ連れて行く。	・滑り台へ移動、跳び降りる。「オーッ」	
		・滑り台に登ろうとしているが、連れて行かれる	

表2-3 自由遊び時間のA児の行動(母子通園施設・園庭)

時刻 時:分	保育者等の働きかけ	対 象 児 の 行 動	他児の行動
13:47		・上履きのまま、園庭の砂場へ行き、座ってパラパラ砂を落す。 ・立って、スコップに砂をパラパラ落す。 ・山に、駆け登る。(1回目) ・「ヤーッ」駆け降りて転ぶ。 ・山に、駆け登る。(2回目)	・R君が遊んでいる。Aを見る ・R君、(M)に足洗い場へ連れて行かれる。
13:48	・(S)そばへ行き、上履きをさわり、「ちがうんだけどねー」 ・(S)「お外のくつじゃないんだけど」 ・(S)「はい、よーいどん、よーいどん」 ・(S)「もう1回行って来たらお部屋へ入ろう」山を指さして「よーいどん」 ・(S)Aに続いて山へ登る。 ・(S)「よーいどん」 ・(S)「はい、お部屋入る」 ・(S)「よーいどん」手をたたく。 ・(S)Aの手を持って立たせる。	・駆け降りる。「笑い声」 ・山に駆け登る。(3回目) ・駆け降りる。 ・山に駆け登る。(4回目) ・駆け降り、腹ばいに滑り込み。 ・立って手をつないで両足跳び。	
13:49	・(S)T子に「さようなら」とおじぎをする。「ちょっと待ってね。A君くつを」 ・(G)「A君さようなら」(T子の代弁) ・(S)「さようなら」Aと一緒におじぎする。 ・(G)「バイバーイ、バイバーイ」Aに手を振る。 ・(G)2歩Aに近づいて「バイバーイ」手を振る。 ・(S)「Tちゃんバイバーイ」Tに手を振る。 ・(G)「バイバイ、またね」 ・(S)「さあ、A君は上履きを洗って」Aを後ろから促す。	・T子におじぎ。 ・(S)にもたれる。 ・T子に手を振る。 ・もう一度山へ登ろうとするが、(S)に従って足洗い場へ行く。	・他児が降園。 ・T子、Aにおじぎ。 ・T子、Aに手を振る。 ・T子、Aに近づいて手を振る。 ・T子、Aの方を見ながら歩いて帰って行く。

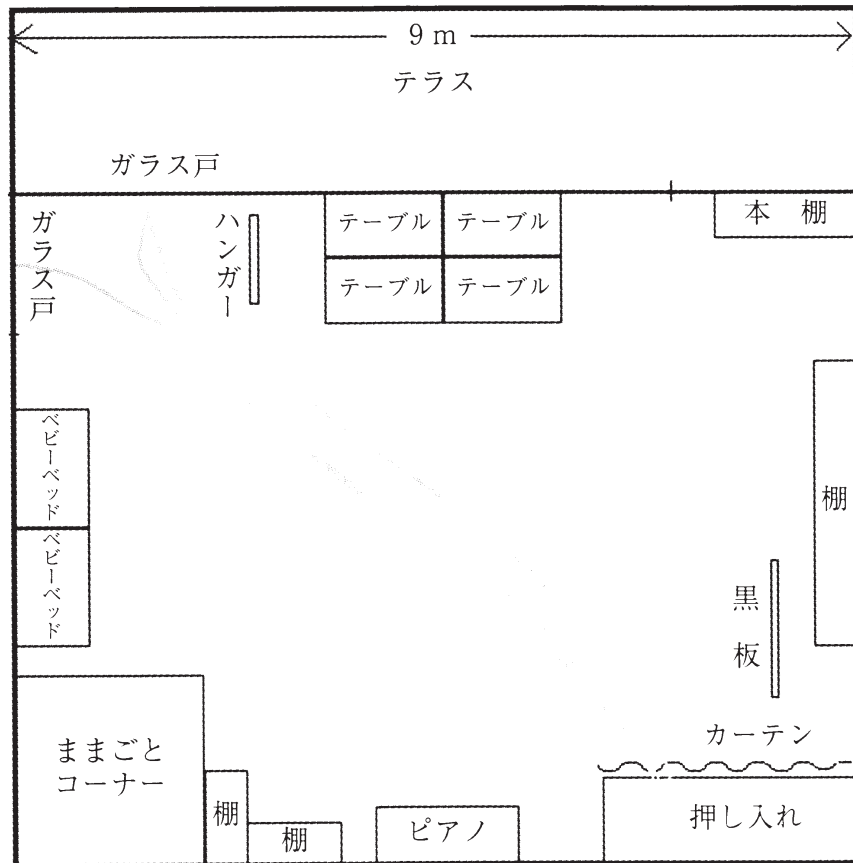


図1 保育所年長組保育室におけるA児の行動軌跡（入室後15分間）

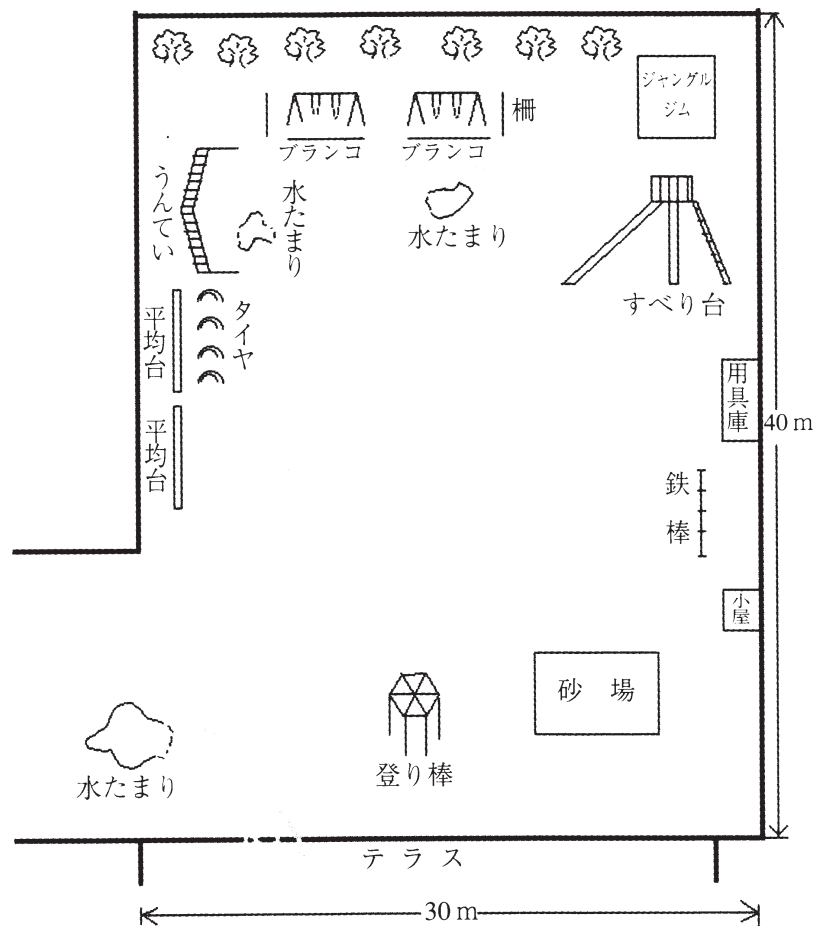


図2 保育所前庭におけるA児の行動軌跡（54分間）

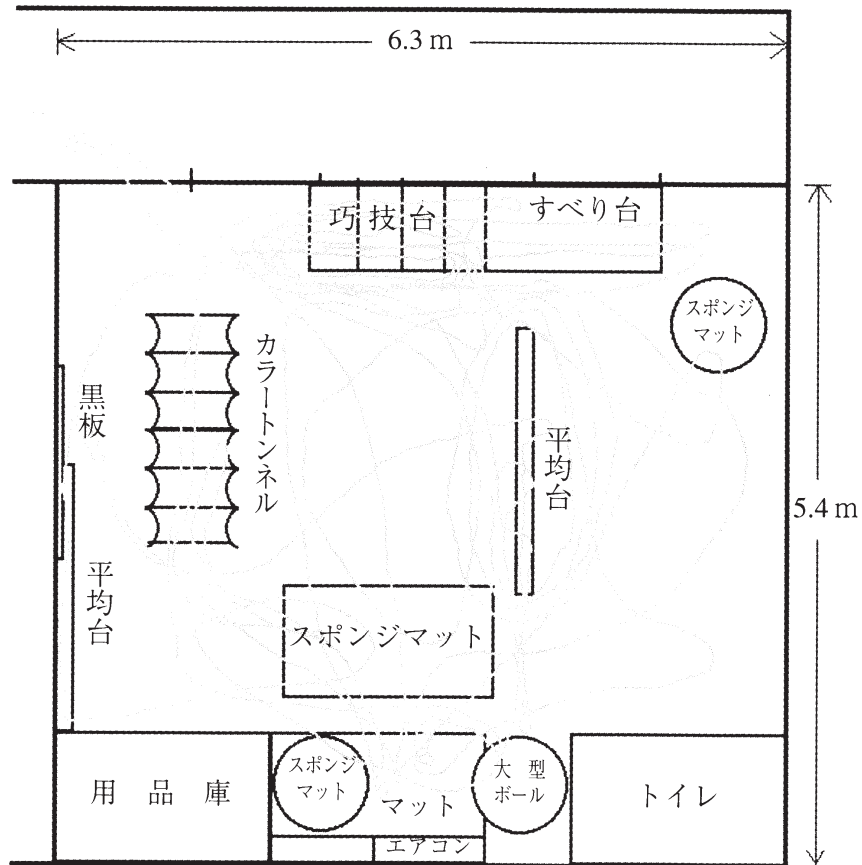


図3 母子通園施設保育室におけるA児の行動軌跡（入室後15分間）

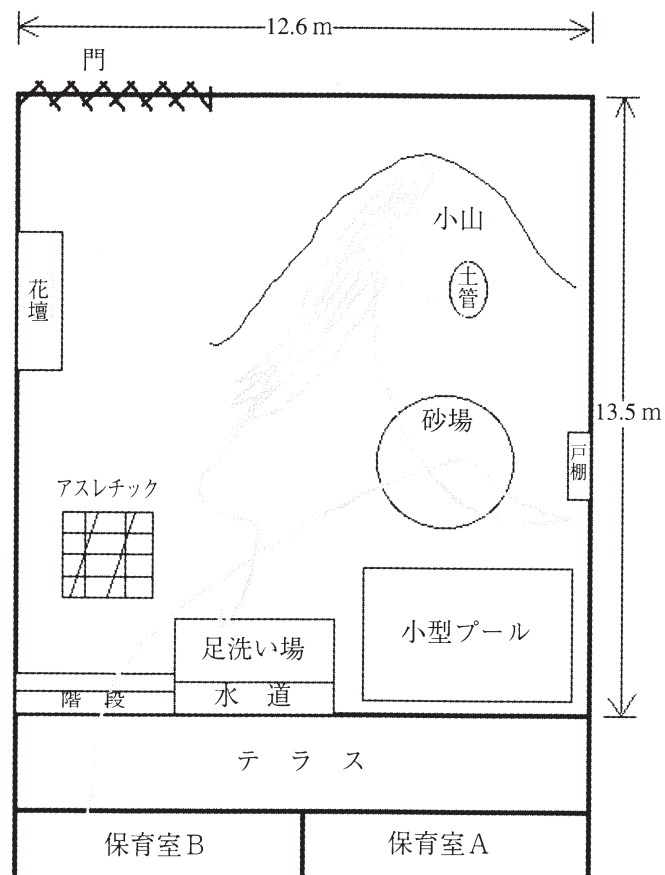


図4 母子通園施設園庭におけるA児の行動軌跡（2分間）

(1998年10月28日受理)